

科目担当者氏名		科目担当者連絡先（メールアドレス）	
水谷 史男			
連絡責任者氏名		科目設置機関名	
浅川 達人		明治学院大学 社会学部 社会学科	
授業科目名	科目認定番号	受講者数	
社会調査実習	MJGa-120801-0	15人	

I. 調査実習に関するコメント

学生が果たした役割や実習全般に対する感想など：

調査の企画から、事前の準備、現地でのインタビューを含む調査活動、そして報告書作成に向けたデータの集計、テープ起こし、記録の整理等に全員が参加し、報告書を執筆して完成した。全員が脱落することなく、最後まで調査をやり遂げたことは大きな経験になったと思います。

II. 調査の企画・設計（デザイン）

1. 調査のテーマ／領域：

現代日本の農業問題と農村社会の社会学的研究

2. 調査の内容／概要：

日本の農業を取り巻く環境と現状について、米作り農業を基盤とする東北地方の町の農協とその組合員の協力を得て、アンケート調査とインタビューを通じて明らかにすることを目的とした。

3. 調査の範囲／対象（量的調査の場合は母集団と標本数及びサンプリングの方法を、質的調査の場合は対象者選定の理由を必ず記入）：

山形県庄内地方の遊佐町において、農協の組合員を対象としてアンケートを実施し、あわせて農協の会合に参加して、組合員の方たちにインタビューを行った。回答者は総計127名であった。

4. 主な調査項目：

農業の実態（農地の規模、作付の内容、兼業の状況、家族や所得の状況、農協や農業への意識、今後の後継者や農業の未来への見通し、TPP参加問題への意見、その他）および対象者の年齢、学歴等の属性。

III. データ収集の方法と結果

5. データ収集（現地調査）の方法：

農協を通じたアンケート調査票による配布回収。遊佐町内各地区別の農協の説明会および懇親会に参加しての個別インタビュー。

6. 調査の実施時期・調査地・調査員の数：

2012年9月3～9日、調査地は山形県遊佐町、調査員は履修学生15名。

7. 収集したデータの量と質への評価（量的調査の場合は有効回収票及び回収率を必ず記入）：

アンケートの有効回答数は127名であるが、農協組合員全員を母集団とする標本調査ではなく、現地調査実施時に開催された17地区の会合への参加者を対象とする形である。

IV. データ分析の方法と結果

8. データ分析／解釈の方法：

アンケートについては、数値化した量的データとしての集計・分析。インタビューについては面接記録をテープに起こして分析をし、これに既存の資料・統計等をあわせて考察を報告書にまとめた。

9. 調査の成果（調査から得られた主な知見など）：

有数の米作農業地域として、大都市生協との連携で積極的な米作りを進めてきた遊佐町では、全国に比べて農業のもつ意味はきわめて大きい。しかし、兼業や後継者の不足はすすんでおり、TPP問題も含め先行きの見通しは厳しいものがある。しかし、農業者の営農意識は高く、かならずしも悲観してはいないとの意見もみられた。

10. 報告書刊行の予定と概要：

2013年3月に、実習報告者が完成・刊行されている。明治学院大学「社会調査実習報告書」第29号、2012年度、231～257ページ。